

2026～2027 SHIKI WEEKLY

国際ロータリー 第2570地区 第2グループ



持続可能な
インパクトを
生み出そう

志木ロータリークラブ

2026-27年度 国際ロータリー 会長 オラインカ・ハキム・ハバロラ 「CREATE LASTING IMPACT」
2026-27年度 第2570地区 ガバナー 原島 生慈 「ロータリー活動に誇りを！」
2026-27年度 志木ロータリークラブ 会長 國分 学 「志木SHIKIプライド」

第2481回 例会

2026-9-9

- ◎司会 末富 啓道 副会長
- ◎点鐘 國分 学 会長
- ◎ソング 我らの生業
- ◎ソングリーダー 白井 義尊 会員
- ◎四つのテスト 白井 義尊 会員



ソングリーダー・四つのテスト 白井 義尊 会員

「会長挨拶」

会長 國分 学

皆様、こんばんは！

9月も2週目となり、朝晩は少しずつ秋の気配を感じる季節となつてまいりました。

本日もお仕事上がりのご多忙な時間帯に、こうして元気に例会へとお集まりいただき、誠にありがとうございます。

季節の変わり目ですので、会員の皆様におかれましては、体調管理に充分お気をつけいただき、本日も有意義な時間を過ごしてまいりましょう。

さて、本日「9月9日」という日は、今からちょうど100年前の1926年9月9日、

アメリカで初の本格的な全国ラジオ放送網である「NBC」が創立された日でもあります。



このメディアの誕生により、世界中で「ロータリーの素晴らしい活動や奉仕の精神」が、ラジオという電波を通じて広く社会へ発信されるきっかけとなりました。

ロータリーにおいて、自分たちの活動を正しく社会に発信し、認知していただく「公共イメージ」の向上は非常に大切なテーマです。

そして、本日の卓話は、我が志木ロータリークラブから第2570地区の各委員会へと出向し、クラブの代表として活躍してくださっている皆様からの「地区出向者報告会」です。

当クラブの外で、地区全体を支え、学び、そして素晴らしい知見を持ち帰ってくださる出向者の皆様の存在は、我がクラブの大きな誇りであり財産です。日頃のご尽力に心から感謝申し上げますとともに、本日の報告を通じて、出向者の皆様が持ち帰ってくださる地区の新しい風や情報を、全員でしっかりと共有してまいりましょう。

それでは、本日の夜間例会もどうぞよろしく願いいたします。

ありがとうございました。

9 月は「基本的教育と識字率向上・ロータリーの友 月間」です

「幹事報告」

幹事 影山 和良

1. 地区事務所より 3 件受信

○国際ロータリー第 2570 地区 地区大会案内

大会スローガン: 森が育み祭が結ぶ未来への絆〜秩父から広がる友情と希望の輪〜

【大会 1 日目】11 月 21 日 (土)

会場: ナチュラルファームシティ

参加対象: クラブ会長・幹事、地区役員、他

【大会 2 日目】11 月 22 日 (日)

会場: 秩父宮記念市民会館

参加対象: 全員

○秋の第 24 回ロータリー全国囲碁大会案内受信

日時: 2026 年 11 月 21 日 (土)

9:30 受付 10:00 開会式

会場: 市ヶ谷の日本棋院本院 6 回対局室

○26-27 年度バルセロナ国際ロータリー年次大会へのお誘い

日時: 2027 年 6 月 26 日 (土)~30 日 (水)

場所: バルセロナ市内ホテル

2. 朝霞地区暴力排除推進協議会より

令和 8 年度朝霞地区暴力排除推進協議会総会資料受信

「卓 話」

「地区出向者活動報告」



進行 プログラム委員会 副委員長 荻野 光一

① 青少年プログラム委員会

アクト・ライラ委員会 委員 宮川 慎太郎



青少年プログラム委員会アクト・ライラ委員会副委員長の宮川です。

先月 8/2 に狭山ヶ丘高校で開催されました、第 56 回インターアクトクラブ年次大会に参加させていただきました。

県内 7 校の高校生が集まり、「障がい理解を広げ、誰もが生きやすい社会に」というテーマで各学校の活動報告があり、その後グループにわかれて意見交換を行い最後に発表という流れでした。

まず驚いたのは参加者の多さでした。そして各発表を聞いてさらに驚きました。

高校生が奉仕の気持ちをもって、テーマに沿ってそれぞれの意見をもっていること、とある高校ではその地域のクラブと連携して地域活動を行っていました。

高校生でそれだけの考え方を持って活動していることに感心させられました。

自分の高校時代を思い返すと恥ずかしくなります。

『ロータリーの友』9月号記事紹介

雑誌委員会 委員 榎本 秀夫



【横組】

P24~25 ロータリー米山記念奨学事業の基礎知識

【縦組】

P2~6 古宮洋二氏「JR 九州のまちづくり」
赤字から再生した JR 九州の取り組み

9 月は「基本的教育と識字率向上・ロータリーの友月間」です

1 つ残念だったのは細田学園さんの生徒が少なかったことです。多い学校では 10 名以上の生徒が参加しておりました。

様々な事情はあると思いますが、皆さんの話を聞いていて、やはりクラブ側から積極的に声をかけて活動している地域の学校は部員も多いように思えました。

志木クラブも細田学園さんとの交流で生徒に楽しいと思ってもらえる活動ができれば、部員も増えていくのかなと感じました。

以上、活動報告とさせていただきます。

② 危機管理委員会・青少年プログラム委員会 アクト・ライラ委員会 委員長 西浦 建貴



去る 5 月 9 日、10 日の両日、福島県において開催された「第 13 回全国インターアクト研究会・福島会議」に、第 2570 地区を代表して参加してまいりました。今回の研究会は、「インターアクト活動の活性化を推進しよう！～環境の回復・創造を学び、福島の現状を知る～」を大会テーマとして開催され、全国各地からロータリアン、インターアクター、顧問教師など多くの関係者が集まりました。

初日は、福島県田村郡三春町にある福島県環境創造センター交流棟「コミュタン福島」を会場に、開会式に続いて、双葉厚生病院院長・重富秀一先生による「医療現場からみた『原発事故直後の現状と復興・再生の軌跡』」と題した基調講演を拝聴しました。さらに、田村市立船引中学校、福島東稜高等学校のインターアクトクラブ、そして JICA で活躍されている元インターアクターの方から、それぞれ貴重な活動事例の発表がありました。

その後、コミュタン福島の館内見学・体験を

通じて、東日本大震災や原発事故からの環境回復、そして福島県が進めている環境の創造について学ぶ機会を得ました。震災から年月が経過した現在の福島の姿と、復興に向けたさまざまな取り組みを知ることができ、大変有意義な研修となりました。夜には歓迎懇親会も開催され、全国から参加されたロータリアンの皆様と交流を深めることができました。

二日目は、インターアクトの国際理解と社会奉仕活動、組織と運営、危機管理をテーマとした三つの分科会が行われ、それぞれの立場から活発な意見交換が行われました。また、インターアクター同士の交流会も開催され、青少年が主体となって奉仕活動や国際理解を進めていくことの大切さを改めて感じました。

今回の福島会議への参加を通じて、インターアクト活動は単なる奉仕活動にとどまらず、地域社会との関わりや国際理解、そして次代を担う青少年のリーダーシップを育む大切な活動であることを改めて認識しました。今回得た貴重な経験や全国各地の取り組みを、今後の第 2570 地区、そして志木ロータリークラブのインターアクト活動にも生かし、さらなる活性化につなげていきたいと思います。

③ ロータリー東日本大震災青少年支援連絡 協議会（ロータリー希望の風奨学金）

委員 西川 和人



ロータリー希望の風奨学金は、2011 年 3 月 11 日に起きた東日本大震災によって両親もしくはひとり親を亡くした子どもたちが成長し、大学（短期大学を含む）や専門学校で学びたいと希望した折、その入学から卒業までを支援しようと、当時の日本のガバナー会で

9 月は「基本的教育と識字率向上・ロータリーの友月間」です

発案されました。2010－11 年度と翌年度のガバナー、各地区のロータリアンの意見を聞き、国内 10 地区の賛同を得て、同年 11 月末に「ロータリー東日本大震災青少年支援連絡協議会」を設立。

給付額は毎月 5 万円で、返還の必要はありません。何よりも重要なのは、この奨学金が学費支援を目的にしているのではなく、被災によって親を失った学生たちの生活を支援しようと始められたことです。こうした私たちの思いに、口座振込先とした千葉銀行は、手数料無料で対応し続けてくれています。

今年 6 月の時点で国内計 19 地区、海外のロータリークラブ、ロータリアン以外の一般人からも寄付金をいただいています。

昨年度 2025 年 7 月から 26 年 6 月までの 1 年間（16 期）の奨学生は 84 名、対前年度比は 84.8%と微減しています。このプログラム開始以来の奨学生数はと言いますと、616 名になっております。2025 年度収支につきましては、収入の部は前期繰越金・支援金・雑収入を合わせて 279,014,869 円で、支出は奨学金として 40,500,000 円、経費として 228,485 円となり、次期繰越金は 238,286,384 円となっております。

この奨学金は発災時に誕生した子供たち迄を授与対象と致しましたので、その子供たちが大学を卒業する年度が、2033 年 3 月です。支援活動が最終段階を迎えようとする中、今後の奨学金抛出対象生徒数も概ねですが、予測が可能な状況となりました。既に本年 9 月に全地区にご案内申し上げましたが、協議会理事役員委員による臨時総会を本年 8 月に開催し、慎重審議の結果、今年度 2027 年 6 月末までは支援金を拝受させていただきますが、2027 年 7 月からは支援金の受付を停止することを協議決定致しました。余程の応募者激増がない限り、過剰な資金は不要との結論に達した次第でございます。

当協議会は、これまで寄せられた寄付金を引き続き慎重に管理し、最後の奨学生卒業まで尽力致す所存です。ご支援頂いたロータリアンの皆様方におかれましては、これまでのお力添えに改めて謝意を申し上げますとともに、ご理解賜りますよう、お願い申し上げます。

なお、ロータリー東日本大震災青少年支援連絡協議会では、国内の各ガバナー事務所宛てに広報誌『風の便り』をお届けしています。毎月いただく支援金の状況や支援者からの言葉、奨学生の声などを抜粋して掲載しています。

④ 会員増強委員会 委員 神山 威仁



現在、地区の会員増強委員会では、「会員増強マニュアル」の作成に向けて検討を進めております。

このマニュアルは、年間を通じた会員増強活動の進め方や、委員会・会員それぞれの役割と責任、候補者の選定から勧誘、入会手続き、さらに入会後のフォローまで、会員増強に関する一連の流れを整理したものです。

今年度中に各クラブへ配布し、その内容をもとにセミナーを開催した上で、次年度には各クラブで実際に活用していただき、その成果を検証するところまでを計画しております。

私自身、地区委員会に出向し、さまざまなクラブの状況や会員増強に対する考えを伺う中で、改めて会員増強の難しさ、そして重要性を感じております。

地区研修の資料によりますと、2570 地区は 30 年ほど前には会員数が 2,800 名を超えていました。それが現在では、6 月末時点で 1,555 名となっております。一方、志木ロータリークラブは、現在もおおむね 50 名前後の会員数を維持しており、30 年前と比較しても大きく人数が変わっていません。これは、歴代の会長や会員増強委員会、そして会員の皆様が継続して努力されてきた結果であり、何より、常に新しい会員を迎え入れてきたからこそ維持できているのだと思います。

9 月は「基本的教育と識字率向上・ロータリーの友月間」です

先日の地区委員会で、ある少人数のクラブを訪問した際の話をお伺いしました。そのクラブでは、「会員増強と言っても、JC や商工会議所の人たちは全然入ってくれないので、なかなか増えない」という話があったそうです。

この話を聞いて、会員増強においては、人とのつながりだけでなく、新しい方を迎え入れるクラブの雰囲気も非常に重要だと感じました。

長年在籍する会員同士の信頼関係や親睦は、ロータリーにとって大きな財産です。しかし、新しく入会する側からすると、すでに出来上がった人間関係の中に入っていくことに、不安を感じることもあります。だからこそ、誰もが自然に交流できる、開かれたクラブであることが重要なのだと思います。

また、新しい会員候補者は、突然現れるものではありません。仕事や地域、友人、知人など、日頃からどれだけ多くの人とつながっているかによって、候補者の数も変わってきます。そう考えると、会員増強は決して会員増強委員会だけの仕事ではなく、クラブ全体で取り組むべき課題だと改めて感じています。

そして、会員を増やすことと同じくらい大切なのが、退会を防ぐことです。そのためには、会員一人ひとりがクラブの中に自分の居場所を感じ、「このクラブに入って良かった」と思える環境をつくることが重要です。

その点、志木ロータリークラブには、非常に良い雰囲気があると私は感じています。新しい会員にも自然に声を掛け、世代や入会年数に関係なく交流できることは、志木クラブの大きな強みだと思います。

今年度の純増3名という目標に向け、クラブ全体で取り組んでいければと思っています。

⑤ ロータリー財団委員会

財団資金管理委員会 委員長 遠藤 貴博

活動紹介、自身で感じている事、実現したい事3つに分けて報告いたします。

【活動報告】直近の活動として、8月1日には北坂戸にて第1回奨学候補生オリエンテーションを、9月5日には本庄にて財団セミナーを実施いたしました。今後の予定といた



しましては、10月17日に財団会議およびオリエンテーションを控え、11月1日には「END POLIO NOW」を掲げたスリーデーマーチへの参加を予定しております。

【自身で感じていること】活動を始めた当初の1～2年は分からないことばかりで、毎回のようによ鬱な気持ちで臨んでいました。しかし、4年目を迎えた今年、少しずつ理解できる場面が増え、微力ながら役に立っていると実感できるようになるにつれて、気持ちも楽になってまいりました。所ジョージさんの言葉に「面倒くさいところに楽しいことが待っている」とありますが、ロータリークラブでの活動もまさにその通りなのかもしれないと感じています。

【実現したいこと】地区に出向させていただいた当初、「志木から来ました」と自己紹介をしても周囲の反応が薄く、共通の話題や期待を感じられず歯痒い思いをしました。私が知る志木クラブは、本来非常にリーダーシップの強いクラブです。だからこそ、周囲からの期待を再び取り戻し、地区の先頭に立って引っ張っていく存在にしたいと考えています。そして、「志木クラブに所属していること」を自分自身が心から誇りに思える状態を実現したいです。

⑥ 公共イメージ委員会 委員 内山 雄二郎

今年度は7月8日、オンラインセミナーと第1回委員会をあわせて開催するところからスタートしました。7月26日には第1・第2・第3地域合同の公共イメージ向上セミナーを委員全員で受講し、五十幡パストガバナーにもご参加いただいたほか、8月25日にも同種



のセミナーに参加し、他地域の発信事例から学びを得ています。

来る 10 月 3 日（土）にはウエスタ川越にて「公共イメージ向上セミナー」の開催を企画し、原島ガバナーのご出席も予定しています。会場・機材の手配から当日の運営体制まで委員会一丸となって準備を進めております。

また新たにメイクアップ Day 登録制度の運用を開始しました。原島ガバナーのご了承のもと、各グループ補佐経由で地区内全クラブへご案内する形で、今年度から試験的に始動しました。既に行田 RC、深谷 RC、新狭山 RC などから登録が寄せられているほか、飯能 RC ではムーミンバレーパークを会場にした夜間例会での実施も決定しています。委員会は登録の取りまとめに徹し、実際の申込は各クラブ間で直接行っていただくことで、負担なく継続できる運用を心がけています。

制度づくりを通じて、ガバナー・補佐の皆さまとの連携の大切さと、委員同士の協力の力を実感した半年でした。10 月 3 日のセミナーを成功させ、メイクアップ Day 登録制度を一過性で終わらせず、地区の定期的な取り組みとして根づかせていきたいと考えております。

⑦ 職業奉仕委員会 委員 吉原 正

本日は、地区職業奉仕委員としての活動紹介と、私自身が感じていること、そして今年度実現したいことについてお話しします。

まず、職業奉仕についてあらためて考える機会が増えました。

職業奉仕は「職業を通じて他者のためになること」そのものです。

安全で価値ある商品やサービスを提供し、適正な対価をいただき、社会に貢献する。



その営み自体が職業奉仕であり、ロータリアンが大切にしてきた理念です。

今年度、地区職業奉仕委員会では「職業奉仕ラーニングツールの充実」「四つのテストの唱和と職場での実践」「会員それぞれが自身の職業で職業奉仕を遂行すること」を重点に活動しています。私自身もクラブ訪問や委員会での議論を通じて、職業奉仕は理念として語るだけでなく、実際の行動として示すことが重要だと強く感じています。

特に印象的だったのは、国際ロータリーが近年、職業奉仕を「理念から実践へ」と位置づけ直している点です。2016 年の規定審議会で、職業奉仕の定義に「自己の職業上の手腕を社会の問題やニーズに役立てるために、クラブが開発したプロジェクトに応えること」が追加されました。つまり、職業奉仕は単なる倫理の話ではなく、社会課題に対して職業人として具体的に行動することが求められているのです。

私自身が今年度実現したいことは、四つのテストをより身近なものにすることです。クラブで唱和するだけでなく、職場での判断基準として自然に使えるよう、事例紹介を通じて理解を深めたいと考えています。

また、職業を通じて誰かの役に立てたという職業奉仕の「実践例」を、小さなものでも構わないのでクラブ内で共有し、職業奉仕を「語れるもの」にしていきたいと考えています。

今年度は、1 月の職業奉仕月間に、各クラブでの卓話、そして 1 月末には職業奉仕セミナーの実施計画があります。

皆様が興味を持って、自ら参加したいと思っていただけるようにまずは自分の理解度を上げてまいります。

9 月 は 「 基 本 的 教 育 と 識 字 率 向 上 ・ ロ ー タ リ ー の 友 月 間 」 で す

